

和歌山大学紀州経済史文化史研究所  
2020年度特別展

# 家門衛左助 五代記

## 高橋家と 木ノ本村

和歌山城より少し離れた木ノ本村は江戸時代から商品経済が発展した近郊農村にあたります。昭和前期、ビタミンAを発見した高橋克己は、当村の出身で和歌山市の「偉人・先人」のひとりです。克己の祖父・助一郎は村会議員を務めた地方名望家で、父・二郎は地域で織布会社を起し、朝鮮半島への資本投下にも関与する産業資本家でもありました。また、克己の直ぐ下の弟潤二郎は工学部(京都大学)出身ですが、青年期には哲学や美学、社会科学の書籍を多数購入し読書している「インテリ」、文化人でした。

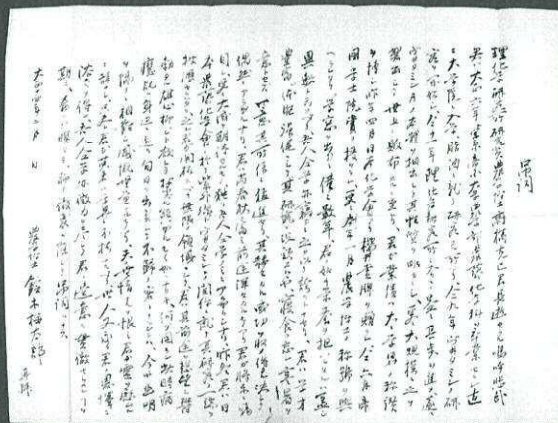
この高橋家には江戸期から明治期にかけての木ノ本村の記録・文書が保管されてきました(半分以上は県立文書館が所蔵)。また克己の末弟・進氏は『和歌山市史』編さん事業にも関与した郷土史家であり、これらの古文書や古記録を使って、木ノ本村の歴史や高橋家の歴史をまとめたこともあります。この高橋家の江戸期四代の歩みを小説にしたのが有吉佐和子の『助左衛門四代記』にあたります。

研究所では、克己関係に限らず、高橋家の五代にわたる諸記録や写真・絵葉書、書籍、海外雑誌等広範な分野の記録類の寄贈を受けています。本展では近世の助左衛門、近代の助一郎と二郎、そして克己三兄弟に関する記録・文書・記念物・書籍等を公開いたします。本展をとおして戦前日本社会の科学・文化を担う人材はどこから、どのような環境から生まれたのかを知る糸口となると考えています。

(担当：吉村旭輝)



高橋博士理化学奨励賞メダル(和歌山中学校)



吊辞(農学博士鈴木梅太郎)

